

菊池澹如(教中)

開拓家、志士。豪商破綻し、新田開発で士族待遇も、日光拳兵計画に失敗、老中安藤信正暗殺計画に連座。

きくちたんじょ

シボク事件・1828 =

宇都宮で代々古着屋・質屋を営む商家佐野屋菊池治右衛門の婿養子となり、江戸に進出して豪商となった大橋孝兵衛(菊池淡雅)の子に生まれる。

シボク追放・1829 =

1歳：この年、父が、衰えた本家佐野屋に代わるべく、一家で宇都宮に移住し、豪商佐野屋初代となる。

父の日本橋店には、佐藤一斎・立原杏所・椿椿山ら錚々たる文人墨客が出入りし、

大塩平八郎乱1837 = 9歳：

蛮社の獄・・1839 =

11歳：この年起きた蛮社の獄で投獄された渡辺崋山の救援するほど正義感の強い父と、

大国隆正門下の歌人の母の影響も受けて育ち、

阿部正弘首座1845 = 17歳：

孝明天皇・・1846 = 18歳：

ペリー来航・1853 =

25歳：父が死去し、家督を相続。2代佐野屋孝兵衛となるが、ペリー来航で世間が騒然となり、商売にも影響、

安政大地震・1855 =

27歳：*大火で江戸の店が焼け、安政の大地震と続いて、わずか3年で3万370両もの大損害となる一方、姉の夫の尊攘論者大橋訥庵の影響を受けて、危機感を募らせ、江戸を引揚げて、農業で生き抜こうと決意、財政難の宇都宮藩が奨励していた新田開発を企図、勘定奉行が訥庵の門弟だったことから、有利な条件で認められ、まず岡本新田に着手、

松下村塾・・1856 =

28歳：*続いて着手した桑島新田は、二宮尊徳門弟吉良三郎に開発を委任し、自らは岡本新田開発に専念し、早くも予定の開墾を終えて、入植も始まる。その功で、藩から御家来並・七人扶持の士族待遇となり、子憲次郎も苗字帯刀御免・町年寄格になる。

桜田門外変・1860 =

32歳：*桜田門外の変で井伊直弼が暗殺されると、幽閉されていた徳川斉昭を擁した日光拳兵の陰謀に加わり、惜しげも無く出資して、かえって義兄訥庵に思いとどまらせられたが、

遣欧使節・・1861 =

33歳：わずか9つの憲次郎に家督を譲り、新田開発事業も継承させ、

生麦事件・・1862 =

34歳：*日光拳兵の件で義兄訥庵が投獄された後、訥庵の影響を受けた水戸浪士による安藤信正襲撃事件(坂下門外の変)に連座して投獄され、藩をはじめとする救済運動で出獄したものの、まもなく病死した。